

## 海上自衛隊練習艦隊のリオ寄港歓迎

2023年8月13日、海上自衛隊幹部候補生の練習艦隊（今野泰樹司令官）がリオデジャネイロ州ニテロイ市のモカンゲ海軍軍港に寄港した。在リオ・デ・ジャネイロ日本国領事館は同日、入港歓迎式典を同海軍基地で開催し、地元日系人を始めとする総勢200人で到着を歓迎した。

練習艦隊のリオ寄港は「令和5年度海上自衛隊遠洋練習航海」の一環として行われた。練習航海は、海上自衛隊幹部候補生学校を卒業した新入の海上自衛官に、長期の洋上生活を通じて部隊勤務に必要な基礎知識を習得させ、訪問国との友好親善活動を通じて国際感覚を養うことを目的に、1957年から行われている。今年で67回目。リオ寄港は8年ぶり。今回は5月25日から10月20日までの149日間で、米国、カナダ、メキシコ、ペルー、チリ、アルゼンチン、ブラジル、コロンビアを巡る。総航程は約5万2400kmに及ぶ。練習艦隊は練習艦「かしま」（大谷三穂艦長）と「はたかぜ」（池崎裕之艦長）からなり、船員には第73期一般幹部候補生課程修了者約160人（うち女性約20人）が含まれる。

歓迎式典は午前10時に開会し、挨拶に立ったリオ・デ・ジャネイロ州日伯文化体育連盟のフカサワ・コウジ会長は「伯国でぜひ多くの交流体験をしてください」と歓迎の意を示し、今野司令官、大谷、池崎両艦長に花束を贈呈した。今野司令官は「練習航海では、海上での訓練はもちろん重要ですが、寄港国での友好親善活動を通じて、国際感覚を養うことも非常に重要な意味を持っています」と強調し、式典参加者らの歓迎に感謝を述べた。

式典後は両練習艦の艦内見学会が行われ、午後1時からはリオ日系協会会館でリオ日系4団体主催による歓迎昼食会が催され、ブラジル伝統料理のシュラスコや様々なブラジル料理、カイピリーニャなどが振る舞われ、参加者と新入自衛官の懇談に華が咲いた。

ブラジルの代表的文化であるサンバダンスの披露と自衛官達がサンバ体験、楽しんだ。新入自衛官の男性は「これまでも様々な国で歓迎会を催していただきましたが、今回のように参加者の方と一緒に踊ったりするのは初めてで、本当に楽しかったです」と語っていた。

8月14日、第2次世界大戦戦没者慰霊碑で、ブラジル海軍及び練習艦隊代表者により献花された。

8月15日、Escola Municipal Doutor Cícero Penna（ドウトール・シセーロ・ペーナ公立学校）で練習艦隊員による武道実演、音楽隊による演奏及び同校生徒の交流事業が行われた。

8月16日、ホシーニャ・スポーツクラブで、音楽隊による演奏、同クラブ主催社会プロジェクト参加者との交流事業が行われた。

8月17日、レシッフェに向かって出港。



モカンゲ軍港で練習艦隊を出迎える参加者



リオ州日伯文化体育連盟のフカサワ・コウジ会長より歓迎ご挨拶



連盟会長夫人より花束贈呈



リオ日系協会会館での歓迎昼食会



サンバダンスの披露とサンバ体験する自衛官達

